

ファイン・ファイネット

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす

# FINE FINET

ファイネット発行

2018

Vol.46

Spring



[FINET User's Voice]

## ASN (事前出荷情報) 活用による「検品レス」の実現

加藤産業様 キューピー様

[FINET INFORMATION]

PSTNマイグレーションによるVANサービスへの影響

～Host接続をご利用いただいているユーザー様へ～

[FINET VAN SERVICE]

VANサービス

EDIデータ保管期間延長のご紹介

# FINET User's Voice

加藤産業様 キューピー様

## ASN(事前出荷情報)活用による 「検品レス」の実現

加工食品メーカー・卸間物流における「車両待機時間の低減」「荷役作業やドライバーの作業環境改善」等のさまざまな社会的課題の解決につなげる加藤産業株式会社様とキューピー株式会社様の取組みについてうかがいました。

加藤産業株式会社  
ロジスティクス部 次長 山本 智元様  
情報システム部 課長 井上 良成様

キューピー株式会社  
ロジスティクス本部 企画部  
業務推進チームリーダー  
森本 雄介様



### —— 「検品レス納品」の検討を始められたきっかけは何だったのでしょうか

**山本** ASN(事前出荷情報)を活用した「検品レス納品」の考え方は、既に小売業様の専用センターで代行検品を実施することによって、店舗での検品作業を省力化することは常識となっていました。一方、「製(メーカー)－配」の間では従来から大きな問題意識がないまま進んでいた経緯もあり「製－配」間でも一緒に取り組んで解決できる課題はないかと模索する中で、昨今の社会的課題を含め「製－配間の検品レス納品」の検討を始めました。

**森本** きっかけは、2011年3月の東日本大震災で大きく変わりました。納品リードタイムや鮮度競争など日本の行き過ぎたSCM競争に改めて目を向けることとなったのではないかと思います。「検品レス納品」の運用検討も大震災と同年の2011年秋から本格始動し、加藤産業様と膝をつき合わせて繰り返し協議する中で、着眼したのが発注から納品までのリードタイムでした。納品前々日夕方のご注文による半日の時間的制約

が緩和できれば、かねてから提案いただいていた検品レス実現の道もあるのではないかと考えたのです。

### —— 「検品レス納品」の運用ルールを検討するうえで重視したポイントや苦労された点はございますか

**井上** システム開発の立場で言いますと、メーカー様にとっていかに判りやすいASNフォーマットを作れるか、というのが大きな課題でした。日食協標準EDIフォーマットの考え方をベースに、判りやすく、使いやすいということを第一義に考えました。あわせて注意したのは、現場の運用にできるだけ負荷をかけないような仕組みにすることでした。運用面では、納品業者間でトラブルに繋がりそうな事象をいかに排除するか、という事に対して特に配慮を行いました。

**森本** データ項目を決めていく上で特徴的だったのは、加藤産業様とキューピー2社間の利用にとどまらず、最初から業界標準というものを見据えていたことですね。フリーフォーマットを使って始めたものを既成事実化して、最終的には日食協標

準EDIフォーマットに乗せていただきたいと考えていました。



加藤産業株式会社  
山本 智元様

**山本** 「検品レス納品」の話を行いますとメーカー様から概ね2つの質問があります。1つ目は、パレタイズデータに関する質問です。双方で使っているパレットの番号は当然違いますので、これをどうするのか。キューピー様とパレット番号は、ユニークな番号としセンター側で置き換え処理をすることで解決しました。2つ目は、在庫誤差が出た時にどうするかということです。キューピー様との間では、何度か打ち合わせを重ねる中で、在庫誤差についても従来ほとんど出ていないので、その時点で考えればいいという事と、仮に発生した場合でも弊社システムで履歴が追求できる環境がありましたのでとにかく前向きに進めることができたのが大きかったですね。

**森本** 物流に対する危機意識が大きく高まってきた時期でしたので、取組みを関係者に理解させやすい環境にはあったと思います。時間的にタイトな納品現場でのドライバー作業を、加藤産業様の発注調整のご協力で得た納品リードタイムを使って出荷段階の荷役作業でやってしまおうという発想は、社内的にも理解されました。同時に、出荷を担当するキューソー流通システムの現場メンバーの仕事のやり方変更・残業削減といった働き方改革やモチベーションの向上にもつながりながら取り組みました。

**山本** リードタイムに影響する検品レス実施に伴う発注業務の調整にあたっては、得意先や在庫への影響ができるだけ出ないように、朝の受注の少ないセンターを選定するなど、発注担当者といろいろ協議しながら決めていきました。

**森本** 在庫誤差についてですが、まず日本の物流においては検品作業時の誤差発生率は相当低い、という現状があります。加藤産業様のご協力をいただいて精度の高い出荷時検品を実施できる体制を整え、それでも万一誤差が生じた場合はお互い誠実に調査して解決するという事で乗り越えました。



キューピー株式会社  
森本 雄介様

**山本** 現場では初めてのケースなので、通常納品の車両への配慮もポイントでした。優先バースや優先時間帯を設けるにあたり、他の車両にも分かるように貼り紙をすとか、許可証を発行したりというところは、キューピー様と話し合いながら、運

用設計していきました。

検品レスの場合、そのデータをどの時点で反映させるのか、ということは問題になります。在庫として反映させるタイミングとか、分納の時はどうするのかとか、現場としっかりすり合わせながら決めていきました。現在は、荷物が届いてから在庫に反映させています。

—— 長期にわたる検討が実を結び2013年1月に「検品レス納品」が開始されました。そしてこの取組みがこの年のグリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞されました。「検品レス納品」の具体的効果は、発表資料の中に詳しく記載されていますが、この他にどのような成果があったとお考えですか

**森本** 一年以上丁寧に検討をする中で、「検品レス納品」以外の課題にも目が向くようになりました。たとえば毎日配送ではなく月水金にまとめることによって検品レスの効果を上げることが出来ます。従来と違う事を始める時は不安がつきものですが、乗り越えて実現することで、さらに違う工夫や働き方を追求するモチベーションになります。

**井上** 庫内作業効率化の課題は、従来から目を向けていなかったわけはありませんが、入荷業務に対しての取組み、スピードが少し遅かったように思います。キューピー様との取組みをきっかけに、活動内容が業界に知られる事によって他社との取組みが具体化しやすくなったと考えます。



加藤産業株式会社  
井上 良成様

—— 両社の取組みから、日食協物流問題研究会においてASNのデータフォーマットの標準化が検討され、2016年4月に「日食協標準EDIフォーマット」の新たなデータ種として「7A事前出荷情報（ASN）」が制定されました。また、2017年3月にはファイネット商品流通VANサービスのデータ種としてリリースされました。この意義をどのようにお考えでしょうか。

**森本** 標準フォーマットが制定されたのは大きな一歩です。ファイネットにはぜひ広める役割を担ってほしいです。理解が進んでいく中で、他のメーカー様や卸様からこうすればもっと良くなるとか、議論がどんどん深まればいいですね。爆発的に広まっていくものではありませんが、スピードを少しでも上げる

ために、ファイネットの活躍に期待しています。

井上 実装に対しては我々の活動が認められたという事で、これからに対し大変期待を持ちました。一方で、我々が長い時間をかけ試行錯誤しカットオーバーしたものに対して、どこまで理解し活用していただけるのか、というところがとても気になります。ASNデータは、現場の事を第一に考え、現場の問題を解決するために定められ、活用されるものでなければなりません。データ交換に縛られて現場でやりたいことができなくなる、というのは本末転倒です。息の長い取組みになりますが、ASN活用でできることがあればぜひやっていきたいです。お取引先と協力しながら様々な取組みをしていきたいと考えています。

—— 物流効率化に向けた今後の展望をお聞かせください

森本 標準フォーマットができたので、今後それを使って他の卸様とも検品レスを拡大していきたいです。標準フォーマットで必要な条件を満たすうえでどのようなやり方ならばできるのか、そこは相対で協議しながら決めていくことになると思います。

山本 他メーカーの荷物が混載で届いている部分もあり、取組みメーカーの拡大ができれば検品レス効果は高くなります。まずは現在検品レスを実施している拠点でのメーカー数を増やしたいですね。他にも、メーカー様の運用形態に合わせて、混載バラ積みで来る路線便を検品レスにできないかとか、弊社から入荷予定データをお渡し、あらかじめ検品した複数メーカーの商品を一緒に持ってきてもらうとか、そんなことも検討を始めています。メーカーのタイプによって、いろいろな方法で検品レス実現を探っていきたいです。



わたしたちは、「豊かな食生活を提供して、人々の幸せを実現すること」をミッションに掲げています。加藤産業グループが今後どのような価値を提供してビジネスを作り、社会の中でどのような存在になっていくか、食を扱う企業としての社会的使命と事業領域をミッションとして定め、わたしたちの事業活動や取組みを通してその達成を目指してまいります。



**Mission** 私たちのミッションは、「豊かな食生活」を提供して、人々の幸せを実現すること。私たちの全ての活動・取組みはこのミッションの達成を目指す。

私たちのミッション(使命)は、  
食の生産の源となる自然の恵みを大切に、  
誰でも、安全で安心な商品が手頃な価格で手に入り、  
季節性・地域性に富んだ多様な食を楽しむ、食文化を継承し、育むことで  
家族の団らん・人々の絆を強め、健康で健全な生活に貢献するような  
「豊かな食生活」を提供し、人々の幸せを実現することです。

**Vision** 私たちのミッションを達成するための長期ビジョン(未来像)

- 「食のインフラ」になる  
商品、情報、ロジスティクスの総合力を発揮して、生活者の豊かな食生活を支える基盤を作る
- 「食のプロフェッショナル」になる  
食品流通に携わるプロとして知識を蓄え、スキルを磨き、生活者に豊かな食生活を提供する
- 「食のプロデューサー」になる  
生活者が豊かな食生活を実現するために、「つなぎ」を実現し、「食」が持つ価値を創造する



愛は食卓にある。

キューピーグループは、創業以来「良い商品は良い原料からしか生まれたい」という考えのもと、安全・安心、おいしさを追求した食品づくりに励んできました。

キューピーは1919年に創業。1925年に日本初のマヨネーズとしてキューピー マヨネーズを発売。以降、ドレッシングやパスタソースなど日本初の商品を世に送り出すとともに、タマゴやサラダ、惣菜など幅広い領域に展開しています。

その歴史の中で培った技術力により、食品にとどまらず医薬品・化粧品原料まで、国内外の幅広いお客様に商品を提供しています。



## PSTNマイグレーションによる VANサービスへの影響

～ Host接続をご利用いただいているユーザー様へ～

NTT東日本及びNTT西日本(以下、NTT)から、PSTNマイグレーションの今後の対応スケジュールが公開され、EDIへの影響が明らかになってきております。本ページでは、NTTの報道発表の内容を踏まえ、当社VANサービスへの影響についてお知らせします。

### info. 01 PSTNマイグレーションによるEDIへの影響

PSTNマイグレーションとは、公衆交換電話網 (Public Switched Telephone Network) から移行 (Migration) することで、NTTサービスネットワークの根幹部分で使用していた従来の公衆交換電話網から、光ブロードバンドをベースとしたIP網への移行を行う取り組みを表します。また、この移行のタイミングで、INSネット (デジタル通信モード) の提供を終了することも併せて公表されており、多くのユーザー様が当社への接続に利用している「全銀協TCP/IP手順 (以下、全銀TCP/IP)」などに影響が出てくる可能性があり、当社では以前から注視して動向の調査を行ってきました。

従来2020年末としていたPSTNマイグレーションですが、昨年4月に後倒しになる可能性が示唆され、その後、2017年10月17日にNTTから以下の内容について公表があり、今後の動向およびスケジュールが明らかになりました。

- ① IP網への移行を2024年1月より開始すること。また、同時期にINSネット (デジタル通信モード) を提供終了すること。
- ② IP網移行後のINSネットワーク上のデータ通信 (補完策) を、2024年1月より提供すること。
- ③ IP網移行後の固定電話通話料が、全国一律8.5円/3分 (税抜) になること。

この公表の中で補完策の提供期間が、2024年1月～2027年頃を目途としていることも謳われております。しかし、この補完策は、NTT設備内でPSTNとIP網の中継網にISDN回線のデータ方式とIPのデータ方式を変換する処理が入るため、現在の処理と比較し遅延が発生することが判明しています。表1は、情報サービス産業協会 (以下、JISA) で、補完策の検証環境に接続した際の検証結果を示しており、現在の処理時間と比較し、110%～400%程度の処理時間となることが確認されています。

表1. EDIシステムを補完策の検証環境に接続した際の処理時間

プロトコル	伝送速度	伝送ブロック長 (テキスト長)	検証環境での処理時間
全銀TCP/IP	64Kbps	120Byte	400%程度
		256Byte	220%程度
		2,048Byte	120%程度
		32,700Byte	110%程度
全銀BSC	64Kbps	256Byte	310%程度
		2,048Byte	210%程度
	9.6Kbps	256Byte	260%程度
		2,048Byte	130%程度

出所: NTT東日本 (編集時に構成を一部変更)  
URL: <http://web116.jp/phone/testbed/results.html>

### info. 02 NTT網と他通信事業者網間のIP網切替について

NTT以外の様々な通信事業者でもISDNサービスを提供しており、その対応は各事業者から公表されていませんが、各通信事業者とNTT間のIP網移行について、図1の通りスケジュールが公表されております。

他通信事業者発・NTT着のIP網への移行は2023年1月より発生する見込みで、移行完了後から処理遅延が発生します。ただし、この移行は通信事業者側の作業によるもので、事業者毎に移行スケジュールが異なることが想定されるため、移行が完了した通信事業者から順次処理遅延が発生する見込みです。さらに、通信事業者によっては、ISDNサービスを早期終了する可能性もあるため、各企業の公式HPなどから情報を集める必要があります。まずは、自社回線の通信事業者を確認することが重要です。

		2018年 ～2022年	2023年 1月～12月	2024年 1月～12月	2025年 1月以降
移行 スケジュール	NTT	加入者交換機の IP網接続準備		IP網に順次移行	移行完了
	他通信 事業者		他事業者発・NTT着のIP網切替を順次開始 (切替時期は事業者毎に異なる)		全事業者の 切替完了
通信毎の 影響 発生時期	他事業者発・ NTT着		IP網へ切替を行った他事業者から 順次遅延が発生		全事業者で 遅延が発生
	NTT発・ NTT着			順次遅延が発生	全地域で 遅延が発生

図1. 通信事業者-NTT間の切替スケジュール及びEDIサービスに伴う影響

# info.03 当社VANサービスへの影響について

表2. 当社VANサービスの影響有無一覧

VANサービス	接続方法	通信手順	ユーザー様利用回線 通信事業者	影響	影響内容
商品流通VAN 資材VAN	Host接続	全銀TCP/IP 全銀BSC JCA	NTT	あり	2024年1月以降、通信が出来なくなる可能性があります
			NTT以外	あり	早ければ2023年1月から処理遅延が発生し、 2024年1月以降、通信が出来なくなる可能性があります
		インターネット手順 (JX, ebXML MS, AS2)	—	なし	—
	WebEDI	—	—	なし	—

表2では、当社各サービスとご利用の通信手順によるユーザー様への影響を一覧化しました。Host接続で全銀TCP/IP及び全銀BSC、JCAを利用しているユーザー様は、2024年1月より通信が出来なくなる可能性があります。

さらに、NTT以外の電話回線を利用しているユーザー様は、早ければ2023年1月より処理遅延が発生します。また、暫定アクセスポイント

を利用した全銀BSCおよびJCA利用ユーザー様については、別途ご案内いたしますが、通信事業者のサービス終了に伴い、今後アクセスポイント（接続先番号）の変更をお願いすることも検討しております。従って、Host接続で全銀TCP/IPおよび全銀BSC、JCAをご利用のユーザー様は、NTTが公表している2024年1月よりも前から影響が発生する見通しです。

# info.04 インターネット手順への移行について

電話回線を用いた通信手順は、今後影響を受けることが確認できておりますので、当社ではPSTNマイグレーションで影響を受けないインターネット手順への移行を推進いたします。表3は、現状利用している通信事業者毎に影響発生時期および移行時期を示しております。

ユーザー様の環境により影響発生時期が異なりますが、2022年末を目途に、当社が提供するインターネット手順（表4）への移行をご検討下さい。

表3. インターネット手順への移行時期

ご利用形態	処理遅延 発生時期	インターネット手順への 移行時期
NTT以外の回線で、 Host接続を利用しているユーザー様	最短で 2023年1月	<b>2022年12月まで を推奨</b>
NTTの回線で、 Host接続を利用しているユーザー様	2024年1月	

※全銀BSCおよびJCA手順については、2022年より前に終了する可能性があります。

表4. 当社が提供するインターネット手順とその特徴

通信手順	通信速度	通信方式	普及率	導入費用	導入の難易度	特徴
①JX手順	10M~ 100Mbps	Pull型※1	高	比較的安価	比較的容易	・日本独自の通信手順 ・PCにも導入可能 ・サーバー間通信ではないため、②③と比較して導入のハードルは低い
②ebXML MS手順	10M~ 100Mbps	Push型※2	中	高額	高	・国際標準の通信手順、主にアジア圏で利用拡大 ・サーバー間通信 ・インターネット接続のため相応のセキュリティ対策が必要
③AS2手順	10M~ 100Mbps	Push型※2	中	高額	高	・国際標準の通信手順、主に欧米圏で利用拡大 ・サーバー間通信 ・インターネット接続のため相応のセキュリティ対策が必要

※1 ユーザー様側から接続してデータを送受信する通信方式

※2 データを保持している側から接続する通信方式。ユーザー様が送信するデータの場合、ユーザー様側から接続します。ユーザー様が受信するデータの場合、当社から接続します。

また、この他にも専用線を利用した新たな通信手段や、通信手順など、ご提供可能なサービスについて現在検討を行っております。ご興味のあるユーザー様はお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

ファイネット 営業推進部 marketing-promotion@finet.co.jp 03-5643-3450(平日9:00~17:30)

## VANサービス EDIデータ保管期間延長のご紹介

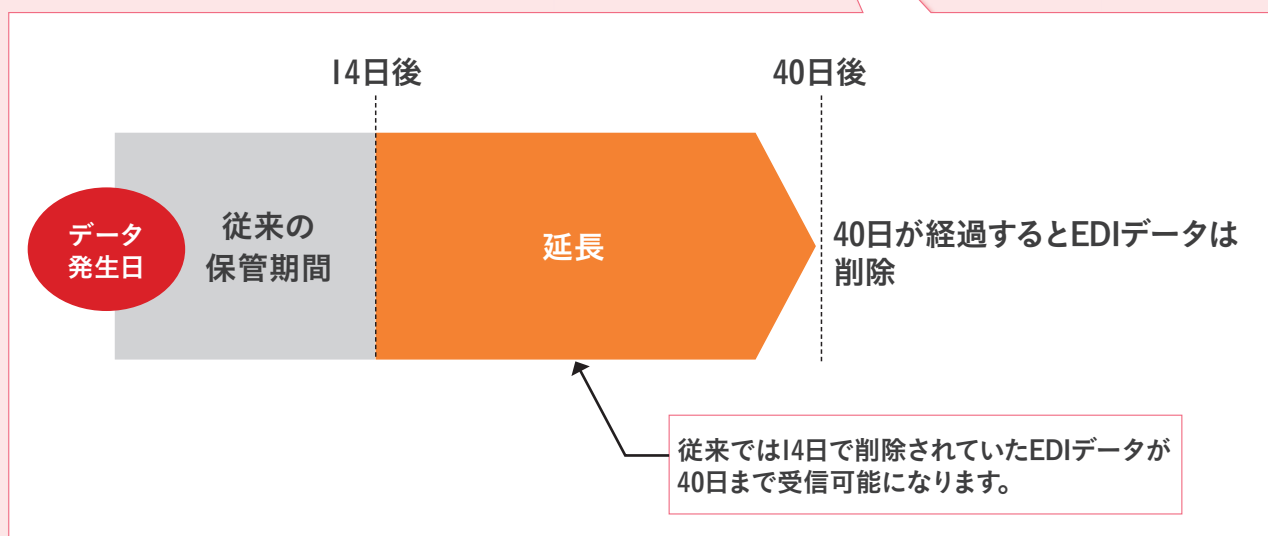
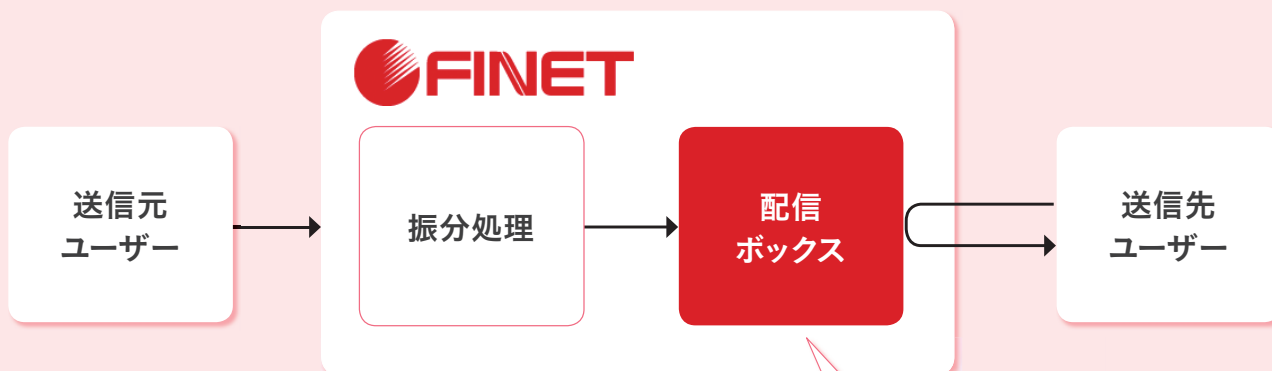
ファイネットでは、ユーザー様の利便性向上を目的に、2018年2月より受信前のEDIデータについて保管期間を延長しましたので、ご紹介いたします。

### 保管期間延長とは


商品流通VANサービス、資材VANサービスのHost接続について、相手先から送信されたEDIデータの保管期間を14日から40日に26日間延長いたしました。

これにより、月単位で発生する月次のデータ等につきましても、保管期間切れによるデータ受信漏れが回避できるようになりました。

#### EDIデータ保管期間延長のイメージ



#### 本件に関するお問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク  0120-091-094 (受付時間：年中無休 7:30~23:00)

## FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET (ファイン・ファイネット)」の宛名や部数の変更等がございましたら、以下までご連絡ください。

## 【連絡先】

株式会社ファイネット 営業推進部 Tel.

**03-5643-3450**

e-mail marketing-promotion@finet.co.jp

## ファイネットへのお支払は、お得で便利な「預金口座振替」をお勧めします

弊社では、お支払方法に「預金口座振替」がございます。  
この機会に、是非ともご検討いただければ幸いです。

## 【ご利用のメリット】

- ①お振込手数料は、お客様負担となりますが、振替手数料は弊社負担でございます。
- ②月々のお振込手続きが不要になり、業務の簡略化が図れます。

## 【お申込方法】

- ①弊社、手続きサイトからお申込ください。  
手続きサイトURL <https://www.finet.co.jp/fts/>
- ②手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク  **0120-091-094** (年中無休7:30~23:00)

## ご担当者情報を最新の状態に保つためにご協力をお願いいたします

弊社では、サービスに関する重要なお知らせをお届けするため、ご加入ユーザー様にはデータ交換に関する窓口の登録を行っていただいております。  
お忙しいところお手数をお掛けしますが、手続きサイトより「担当者登録状況」をご確認のうえ、ご担当者の登録情報に変更がある場合は、お早めに手続きを行っていただきますようお願いいたします。

## 【お申込方法】

- ①弊社、手続きサイトからお申込ください。  
手続きサイトURL <https://www.finet.co.jp/fts/>
- ②手続きサイトのご利用方法がご不明の場合のお問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク  **0120-091-094** (年中無休7:30~23:00)

**FINE FINET** (ファイン・ファイネット)

Vol.46 2018 Spring 2018年4月1日発行

[発行] (株)ファイネット 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル7階  
TEL.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 小原 応孝

<https://www.finet.co.jp>